

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年 3月 31日

事業所名 放課後等デイサービス ブーゲンビリア

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3		療育、学習と目的に応じて部屋を設定している。	より快適な空間、安全面に配慮して環境設定を行う。
	2	職員の配置数は適切である	3			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	1		危険箇所がないか、日々の確認・点検・共有を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3		業務前、終礼時の時間を活用し、業務の確認、伝達を行っている。	全員が目標を共有し、改善点を常に見出せる環境、時間を作る。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3			今回、これまでのアンケート結果をもとに業務改善を図る。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3		法人指定の方より人材育成プログラムが実施されている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3			研修を受けた職員からフィードバックを行う。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3		保護者の思いと、必要とする支援を明確にして計画を作成している。	職員との情報共有、担当者会を通して計画を作成する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		アセスメント内容を分かりやすく記載、記録している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3		月の会議の中で立案、協議している。	短時間でも常にミーティングを行う体制を作る。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3		月の会議の中で立案、協議している。	短時間でも常にミーティングを行う体制を作る。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3		季節に応じた活動や、様々な体験が出来るよう計画している。	余暇の中で、社会的な学びや経験が積めるよう様々な計画を行う。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	3		学校や家庭での状況、成長過程に合わせて計画作成を行っている。	情報はその日のうちに職員に伝達、共有し記録する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		毎日の引継ぎ、確認を徹底している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3		終礼にて活動の振り返り、支援の改善点などを確認している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		毎日、記録の漏れ等がないよう徹底している。	子ども達の変化を確認し、支援内容の継続、改善、変更を判断する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3		保護者、スタッフ、専門職員からの情報を入れながら行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	3		ガイドラインの読み合わせを行い、意識をした支援を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		参加出来ている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3		定期的な情報共有を行っている。	より学校との連携が出来るよう、相談員も交えて働きかける。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当利用児なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3		利用事業所や相談員等交え、情報共有を行っている。	より細やかな情報共有が出来よう関係作りを行うようにする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			現在、該当者なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3		母体施設との連携体制をとって運営している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3		コロナ禍の動向を見て、交流の機会が持てる際は計画をする。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3		送迎時の直接の伝達や電話、連絡帳を活用している。	得た情報は、その日のうちに伝達、記録を残すようにする。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3		面談の際等、保護者の思いに傾聴しながら時間を頂いている。	ペアレント・トレーニングの実施はないが、保護者の方々とのお話の中で助言やお気持ちに寄り添う時間を作ります。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3		契約時等、重要事項説明書と併せてお伝えしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3		面談の際等に、保護者の思いを傾聴しながら時間を頂いている。	より保護者からの言葉や思いを頂く時間を設けるようにする。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3		父母の会はまだ未設立。コロナ禍にて療育参観日の開催も見合わせた。	状況を見て「療育参観日と懇談会を開催し、保護者間の連携が出来るよう計画する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3			速やかにかつ、誠意を持った対応をしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3		毎月のお便り、法人の広報誌を発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	3		管理徹底している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3		日々の状態に留意し、言葉かけを多くしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3		コロナ禍の動向を見て、地域の方を招いての行事等の機会が持てる際は計画をする。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3		マニュアルの作成及び、新しい事項を加え都度改定している。	保護者向けのマニュアルの説明、配布を行う
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3		定期的の実施を行っている。	様々な有事に対する訓練を今後も行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3		周知、徹底し全員が厳守して支援にあたっている。	法人内マニュアルの活用、意識チェックを定期的に行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			該当利用児及び、事例なし。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3		保健調査票を作成し、共通認識している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3		毎日の振り返りの中で、なかったか確認している。	勉強会及び、施設内事例の分析を行う。